

# 平成 29 年度市川市社会福祉審議会 第 3 回地域福祉専門分科会 会議録

1. 開催日時：平成 29 年 11 月 13 日(月) 午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分

2. 開催場所：市川市役所仮本庁舎 4 階 第 2 委員会室

3. 出席者

## 【委員】

会長 高田委員

副会長 加藤委員

委員 石原委員、岸田委員、萩原委員、古瀬委員、堀江委員、村山委員、山崎委員

## 【市川市】

若菜福祉政策課長、杉山地域支えあい課長、加藤介護福祉課長ほか

4. 傍聴者 1 名

5. 議事

(1) 第 3 期市川市地域福祉計画の進捗状況報告について

(2) 次期市川市地域福祉計画の素案について

(3) その他

6. 配布資料

・分科会資料 5 第 3 期地域福祉計画進捗状況

・分科会資料 6 第 4 期市川市地域福祉計画【平成 30 年度～平成 35 年度】(素案)

項 目	内 容
	<p style="text-align: center;">(1)「第3期市川市地域福祉計画の進捗状況報告について」</p>
高田会長	<p>それでは、次第(1)「第3期市川市地域福祉計画の進捗状況報告について」です。福祉政策課より、説明をお願いします。</p>
福祉政策課	<p>(分科会資料5「第3期地域福祉計画進捗状況」に基づき説明)</p>
高田会長	<p>ただいま、福祉政策課より説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p>
高田会長	<p>3ページ「施策の方向4 権利擁護と見守り体制の充実」でA評価、B評価、「日常生活自立支援」についてA評価となっていますが、高齢者サポートセンター、居宅介護支援事業所のケアマネジャーからは、なかなか生活支援員が足りず、すぐに利用できないという話を聞きます。そのあたりは何か把握していることはありますか。</p>
萩原委員	<p>22ページ「上記の評価の理由」で書いてある通り、35名ほど待機者はいらっしゃると思います。社協でも支援の募集をしておりますが、なかなか追いつかない状況で、委託事業で後見人の養成講座もやっており、今回募集をして2、3人応募がありました。これからも努力していきたいと思えます。</p>
高田会長	<p>一人暮らしの高齢者や認知症の方も増えてきますので、その入り口の部分の自立支援事業は重要になってくると思います。</p>
萩原委員	<p>21ページ「パンフレット作成部数」について目標が3000部で、実績が0部というのは、作成の必要がなかったということなのではないでしょうか。</p>
介護福祉課	<p>パンフレットについては隔年で作成をする予定で、一度3000部作成したら、2年間は配布をするという形になっております。</p>
高田委員	<p>「コミュニティーワーカー事業」の件について、このデータや評価の指標になるものが、10ページには記載がないのですが、何か判断基準はあるのでしょうか。</p>
地域支えあい	<p>コミュニティーワーカーの活動では、地域の課題を行政につないで、施</p>

課長	策として反映していくことが重要と考えております。昨年はコミュニティーワーカーの意見も参考にさせてもらいながら、かねてから要望のあった南行徳の拠点をも、1箇所開所したところでございます。こちらの指標には記載しておりませんが、そのような活動も行っております。
岸田委員	4ページ「福祉コミュニティの充実」の中に、「地域ケア会議等」とありますが、この「地域ケア」という言葉と「地域包括ケアシステム」という言葉が出てくるかと思えます。この言葉の使いわけをどう考えていけば良いか教えていただけますか。
福祉政策課長	「地域ケアシステム」は、市内、市外含めて地域からいただいた課題をピックアップしながら、役所の協議体で揉ませていただき、課題解決に向けて施策に反映していくもので、それを地域の方にお答えしていくシステムです。本市では10数年来進めてきているもので、各拠点においてコミュニティの調整を行い、子どもからお年寄りまですべての方を対象に進めさせていただいております。次に「地域包括ケアシステム」についてですが、基本的には高齢者を中心と言われておりますが、現在は新しく「地域共生社会」という言葉も出てきておまして、高齢者だけでなく全ての市民を対象とした支えあいとして広がってきているものです。
福祉政策課	会議、システムの名前等が紛らわしいということで高齢者福祉専門分科会でもご意見をいただいております。4ページ「地域ケアの会議等」とは、基本的には地域ケアシステムで従来行われている会議の総称として使用しておりますので、厳密に言う地域ケアシステムの中の会議という意味合いです。ご存じかと思いますが、地域包括ケアシステム関係で「地域ケア個別会議」や「地域ケア会議」など高齢者サポートセンター中心で個別検討するための会議を行うようにするようといった通知も来ており、会議名が増えてきている関係もあります。こちらについては現在整理しておりますので、ご了承いただければと思います。
地域支えあい課長	当日配布の資料「広報いちかわ」の中で「地域ケアシステムで誰もが安心して暮らせるまちづくり」という特集を組まさせていただいております。地域ケアシステムにつきましては、支えあいの福祉のまちづくりということで、行政と社会福祉協議会、地区社会福祉協議会の3者が一体となりまして進めております。南行徳地区の拠点のお話もさせていただきましたが、市内の自治会連合協議会と同じ14の区域に分けております。市川市独自の福祉の支えあいのシステムということで、国に先駆けて行っているものです。計画策定の前に、地域ケアシステムについて市民の皆様へぜひ

	<p>知っていただき、このシステムを計画の中に含んでいければ良いと考えております。</p>
高田会長	<p>第3期の計画にも用語集で分かり易く書いてありますのでご覧になっていただければと思います。</p>
村山委員	<p>30 ページ「地域福祉推進の基盤づくり」のところで、講座の回数が193回と増えていますが、具体的にどのような内容が増えてこのような数字となったのでしょうか。次に、34 ページにパソコンによるさまざまな情報共有をしていくということで、全ての地区でパソコンが確保されたというのは、地域ケアシステムの拠点で確保されたのでしょうか。また、パソコンのスキルの向上と言いますが、私の知っている地区ですとパソコンのスキルを獲得している人が少なく、例えばチラシや会議次第などは作られています。情報共有というところまでは使いこなせてはいないと思います。さらに全体的に「地域福祉推進の基盤づくり」というのは人づくりだと思っております。行政でも社会福祉協議会でも自治会、民生委員でもない新たな人材を掘り起こさないと、先ほどの「日常生活自立支援」を支えることは難しいですし、市民後見人も育っていかないとしますので、このあたりを何か検討していただきたいと思っております。</p>
地域支えあい課長	<p>地域ケアシステムの拠点やサロンに出向き、「介護予防・日常生活支援総合事業」の周知、「市川みんな体操」のプレゼンテーションや、今年度から開始しております地域リハビリテーション活動推進事業の説明を行っております。なお、この地域リハビリテーション活動推進事業とは、リハビリの専門職がサロンや公民館など地域の方が活動している場所へ出向いていき、口腔ケアや介護予防や健康寿命などの講話をし介護予防につなげる事業です。パソコンにつきましては、かねてから要望がございました地域ケアシステムの活動拠点に設置いたしました。</p>
萩原委員	<p>パソコンについては、ネットワークはまだありませんが、今後も社協から職員を派遣してチラシづくり等ができるように支援していきたいと思っております。</p>
堀江委員	<p>33 ページ「災害時のみならず、地域活動における個人情報の取扱いについて法に照らした解釈や整理が必要」とあり、D評価がついていますが、全然出来ていないということでしょうか。これの実施には地域支えあい課が情報をまとめているところですので、そちらの説明をしていただけますか。</p>

地域支えあい課長	<p>こちらは研修会の開催数が指標となっているため、D評価となっております。研修会は開催しておりませんが、民生委員の会長会や地区の会議、地域ケア推進連絡会等へ地区の担当者が出向いていき、個人情報の取扱いについて説明しております。次期計画におきましては、みなさまが分かり易いパンフレット作り等を考えております。</p>
	<p>(2) 「次期市川市地域福祉計画の素案について」</p>
高田会長	<p>次に、次第(2)「次期市川市地域福祉計画の素案について」です。福祉政策課より、説明をお願いします。</p>
福祉政策課	<p>(分科会資料6「第4期市川市地域福祉計画【平成30年度～平成35年度】(素案)」に基づき説明)</p>
高田会長	<p>ただいま、福祉政策課より説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p>
古瀬委員	<p>パブリックコメントの意見や質問を反映した部分はどこにありますか。</p>
福祉政策課	<p>パブリックコメントにつきましては現在も実施しており、来週の月曜日まで行う予定です。結果については次回の分科会でご報告させていただきます。</p>
堀江委員	<p>全体の話ですが、お年寄りの方々の部分では、地域に住んでいて緊急の際には助けてほしいという意見が多いです。ところが、なかなか地域ケアシステム自体の認知度が低く、市民では23%です。自分のことは助けてもらいたい、周りの情報は把握していない市民が多いと思います。地域ケアシステムはA評価でしたが、認知度については低いと思いますので、より認知度を高めてもらいたいです。また、中身のスキルを上げてもらい、いかに住民からの意見を吸い上げられるかを、もう少し考えていただきたいです。私も地域ケアシステムに出ている人間としてと思いますが、行徳地区ですと地域ケアシステムの連絡会では、ほとんど報告だけで終わりです。押し付けるのではなく、情報を得るために、何か意見を求めるようなことが行政からあっても良いのではないかと思います。どこのページを見ても地域ケアシステムは良い話ばかりですが、認知度が低いのはいくら評価しても仕方がないです。自分が歳を取って関わってくるから知るというだけではなく、一般的に知ってもらえるようになれば良いとつくづく思います。また、これとは別ですが学校との連携は非常に重要だと思います。私たち民生委員も、盛んに学校に福祉のことを吹き込んでいます。私も2</p>

	<p>回程授業をしましたが、子どもたちは興味をもっています。例えば体験授業をやると、皆やりたがります。しかし、授業のカリキュラムが決まっています、その中に組み込むことができません。総合の授業の一部でしかありませんので、年に数時間しかありません。それでは子どもたちには伝わらないと思います。子どもたちに植えて、それが6年後にどの程度の成果が出てくるかが、私はとても楽しみです。ぜひそういったことを政策の中にも組み込んでいただきたいです。</p>
<p>地域支えあい課長</p>	<p>地域ケアシステムにつきましては、広報や一般の方に来ていただける場である地域ケアシステムのサロン祭りで周知し、地域の差もありますので、それぞれの事例をご紹介していきたいと思います。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>以前は社会福祉協議会で学校でいろいろなことを行うボランティアをやっていたと思います。そのとき私も中学校に行って傾聴のことについて、実践的にお話させていただいておりました。またそういった機会があれば、さまざまなボランティアがいらっしゃいますので、上手く活用して夏休みなどのお休みの間に福祉を浸透するのも良いと思います。</p>
<p>加藤副会長</p>	<p>ある小学校の35周年の催し物で、子どもたちが父兄の方々と一緒に参加していて親子のつながりというのを見せつけられてしまいました。子どもたちがとてもいきいきしていました。私も子どもたちのつながりをどのようにやっていくか悩んでおりましたので、さまざまなアイデアをいただければと思います。また、現在教師は非常に時間がないんです。そのような状態は決して子どもたちにも良い影響を与えませんし、良く思われなと思います。地域ケアシステムで話が出るのは、地域の団体の意見しかありません。それぞれ自分が持ってきたものを話すので、皆聞いていないことも多いです。そういうところで、少し変えていかないといけないと思っております。</p>
<p>村山委員</p>	<p>106 ページ「地域福祉推進体制の充実」として図が書いてあります。これを基本的な形として中身を深めていくということだと思いますが、「地域ケア推進連絡会（小域福祉圏14地区）」というのは一番地域に近い形のもので、ここでそれぞれの地区が報告し合うだけでなく、さまざま地域の問題が出てきて、より深い話ができる場になってもらわないとそれが地区推進会議や市へつながっていかないのではないかと思いますので、この地域ケア推進連絡会の中で「プラットフォームを目指して地域のボランティア、NPO団体、障害者団体等との連携を図り、より多くの地域住民や地域福祉関係者を巻き込みながら」と書かれているように、構成メンバーの中にボランティア団体やNPO団体、障害者団体等、子ども会関係者だけ</p>

	<p>でなく学校関係者が参加すると良いと思いますので検討いただければと思います。次に、それぞれの施策の方向で、事業名及び事業内容が書かれています。どこがどこにつながっているのかが見えにくいと思います。例えば 102 ページ「地域活動応援制度の創設・実施」で、募集したときに応募してきた団体が地域ケアシステムとつながるのでしょうか。とても大きなポイントであると思います。地区社協等に提供するだけだと、つながらない気がするので書いていただいた方が良いでしょう。同じことが言えるのが 100 ページ「地域活動の担い手養成研修」で、つながると書いてありますが、より具体的な標記があると良いでしょう。さらに、4 ページから「我が事・丸ごとの地域福祉の推進」と出ていますが、ここには平成 29 年 6 月 2 日公布とありますが、平成 29 年 9 月 12 日に一番新しいものが出ています。そのことを計画の中でどのように取り込んでいくのかがとても大切なことなので、情報を載せるだけでなく、先ほどの応募してきた民間団体や地域の方が具体的にどのように動くのかが示されていないと、「我が事・丸ごと」でどのように進められているのかがわからないと思います。またその中で、この「我が事・丸ごと」が本当に必要なのか、率先して始めた地域ケアシステムやサロンもたくさんあるので、それを充実するだけで十分なのかということも併せて検討していった方が、中身が非常に具体性を持ったものになり、地域で活動する方や地域の団体を育てることになると思います。</p>
福祉政策課長	<p>一つ目の部分については、また次回お答えさせていただければと思います。地域共生社会については、まだ具体的な方向について国からも示されておりません。この計画も含め市川市として、どのような形になるのかというのは具体的にはお示しできないところが正直なところでございます。地域共生社会については我々だけでなく、全体に広がっていくものになると思います。また詳細なものが出てきましたら、皆様にもお示しできると思います。</p>
高田会長	<p>100 ページ、102 ページのところ、具体的なところはこれからということでしたが、方向性は示されているように感じました。102 ページ「地域活動応援制度の創設・実施」については、社会福祉法人や民間企業が社会貢献というところで積極的につながりが出てくると思います。100 ページ「地域活動の担い手養成研修」というのは単なる啓発ではなく、登録をして住民の新たな活動が展開されていくということなので、具体的にはこれからだと思いますが、方向性は見えてきていると思います。</p>
岸田委員	<p>1 ページは、日本の社会のレビューから入り、今は「我が事・丸ごと」でいかないと地域は成り立たないため、プランを変えていきますと、非常</p>

に素晴らしいと思います。ただ、その後の施策の展開のところ、どのようにつながっているかが分かり辛いと思います。いくつか方向性が出ているものもありますし、「市川市はこのよな地域共生社会を作ります」というようなものが、冒頭に示されていると、より分かり易くなるのではないかと思います。「我が事・丸ごと」は地方部では生きていく上で仕方なく進んできた部分もあると思いますが、東京を中心とした都市型コミュニティにおいて、新しい共生社会というのはどのように作るのかは非常に大きなテーマです。市川市は先見性の高い地域ケアシステムを進めてきましたので、より踏み込んだことを書いてしまうのも良いのではないかと感じました。前半を読んでいておもしろいですが、アンケート結果を見ると市民の方はそこまで気持ちが進んでいない。そこを行政がこのように埋めていくというようなことが書いてあれば、非常に良いモデルになるのではないかと思います。ボランティアやNPO法人、学校や商業施設などが活性化しているところはコミュニティが良くできているということが最近の研究でも出てきています。そういった目に見えないつながり、ソーシャルキャピタルと呼んだりしていますがそういった心意気が出てきたらおもしろいと思います。

萩原委員

一番言いたいことは「地域の担い手をどうするか」ということです。国税調査を見て27年度と17年度を比較すると、自宅で従業しているという方が17年度は16,000人いて、27年度は13,000人で減っています。さらに、従業も通学もしていない方が17年度は145,000人で27年度が130,000人と同様に減っています。そのような状況の中で「市川市で頑張りたい」と思ってもらえるように、市川市も地元愛を持ってもらうためにより頑張ってもらえればと思います。その中で子どもたちをどのようにしていくかというのは、一番重要だと思います。学校もコミュニティクラブでさまざまなことをやっていて、特徴もあると思いますが、コミュニティクラブと、子ども会、福祉の関係と、さまざまな取組みをしているにも関わらず、それが一体化していないというのが市川市の特徴だと思いますので、そのあたりの整理も必要だと思います。また、「我が事」と思えるような交流会等が必要だと思います。具体的なことはお示しできませんが、これからも考えていきたいと思っています。

堀江委員

地域で何かものやることが少なくなりました。お年寄りが集まってくるだけで、若者は出てきません。しかし、子どもは集まってきます。育てる機会というのは、そのあたりしかないと思います。市川市の現状としては、昼間に働いている人が多いので両親に出てきてくれといっても、休みの時間は十分に取りたいということで、なかなか出てきてくれません。本来なら自治会の人が少ないということ、何かしらの方策を考

	<p>えていかないといけないと思います。実際は方策を考えるというよりも、出てきてもらえるような環境の整ったイベントを考えていくしか方法がないと思います。14 地区にケアシステムを置かれています、各地区の中にコミュニティーワーカーがいますので、みんなで協力できるようなものを考えてもらいたいです。例えば、市民祭りは行政も民間も出てきてとても盛り上がります。こういったものをできれば数多く作ってほしいのですが、難しいと思いますので、各地区でそういったイベントをやればお互いが顔見知りになり、そういった場に出てくる可能性も増えると思います。行政だけでなく、地域の人に意見を出してもらう形の方が良いと思います。今地域は死んでいますよね。子どもたちが育って、この地域で育って良かったと思う大人がどれほどいるのかと言うと、ほとんどいません。市川の場合でも、在籍は市川でも巣立つと都会に出て行ってしまいます。しかし、「市川で育って良かったよね」というものが何かあると良いと思います。</p>
古瀬委員	<p>私は、国府台のスポーツセンターを中心に活動している市川スポーツガーデン国府台という団体にバドミントンをして週に一回しています。そこには幼稚園生から我々の年齢までの方、なかには障害者の方もいらっしゃいますが、バドミントンを上手になりたいというだけではなく、非常に福祉につながっていると感じます。お年寄りが介護保険のお世話にならないためには、運動することが一番だと思います。90 ページ「スポーツ等、体を動かす場所を確保する」とあります。実際にはスポーツの事業はスポーツ課が主にやっているとありますが、福祉サイドからも何かできなんでしょうか。難しいとは思いますが、場所を提供して確保するだけでなく、もう少し踏み込んで何かできないものかと思っています。</p>
福祉政策課長	<p>予防ということで、「市川みんなで体操など」と記載させていただいているところですが、スポーツ等の体を動かすことが重要であると思います。現在具体的にお示しできないところもありますので、スポーツ課とも協力していけるように検討していきたいと思っています。</p>
<p>(3)「その他」</p>	
高田会長	<p>次に、次第(3)「その他」です。事務局より、説明をお願いします。</p>
福祉政策課	<p>前回の分科会で、11月の審議会の開催を延期したことに伴い、11月の各分科会の際に、所属されていない分科会の計画案等の資料につきましてお配りさせていただき旨をお伝えさせていただきましたが、本日高齢者、</p>

高田会長 終了	<p>障害者それぞれの計画案をお持ちいたしておりますので、分科会終了後に該当の委員の方にお配りさせていただきます。各計画間の関連等もございますので、ぜひお目通しいただければと思います。以上でございます。</p> <p>以上をもちまして、平成 29 年度第 3 回地域福祉専門分科会を終了いたします。</p>
------------	---

市川市社会福祉審議会  
地域福祉専門分科会  
会長 高田 俊彦